



M区遠景（東から伊勢湾を臨む）

# たかちややおおがいと 高茶屋大垣内遺跡 第5次調査 現地説明会資料

つししろやま  
～津市城山～

2022（令和4）年11月12日  
みえけんまいぞうぶんかざい  
三重県埋蔵文化財センター

（約1500年前～900年前）  
古墳時代中期から中世までの遺構や遺物を確認することができました！



M区全景（西から撮影）

## 【本調査における高茶屋大垣内遺跡の位置付け】

今回の調査では、L区では古代から中世の掘立柱建物や竪穴建物のほか、平安時代の道路跡とその道路内で火葬をおこなった全国的にも珍しい事例の痕跡（火葬穴）がみつかりました。M区では古墳時代の竪穴建物の発見、奈良時代の井戸から出土した遺物に都で使用する土器を含んでいること、方形に区画するような平安時代から中世の溝3条のうち1条から小片ではありますが、L区同様に白磁がみつかりました。

今回の調査でみつかった遺構および遺物の多くは、一般の集落では確認できないものです。これは当地が古墳時代から中世まで継続的に重要な地点であったことを示しているでしょう。

また、当地は「藤瀧」のほか水上交通の要であった「雲出川」との関連も考える必要があり、この川沿いに古代の大型掘立柱建物や都で使用するような土器が多数みついている「雲出島貫遺跡」があります。この周辺は古代において「嶋抜郷」という集落があった地域と考えられています。今回出土した遺構や遺物、交易における要地であった藤瀧を臨む立地は高茶屋大垣内遺跡も古代嶋抜郷周辺の水上交通において重要な地点であったと考えられるでしょう。

調査遺跡名： 高茶屋大垣内遺跡  
所在地： 三重県津市城山  
原因事業名： 令和4年度 県盲学校・聾学校等新築工事  
調査実施機関： 三重県埋蔵文化財センター

〒515 - 0325 三重県多気郡明和町竹川 503

TEL : 0596 - 52 - 1732

FAX : 0596 - 52 - 7035

HP : <https://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/>



HP



Facebook



YouTube



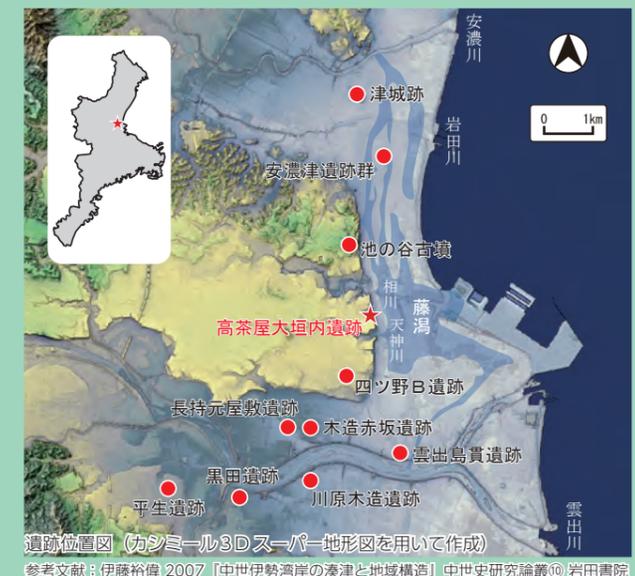
Twitter

## 【概要】

今年度の調査（2022年5月～8月：L区・9月～11月：M区）のうち、M区では古墳時代前期・奈良時代の竪穴建物を7基、奈良時代の井戸1基、奈良時代の掘立柱建物2基、平安時代末期から中世初期にかけての溝3条がみつかりました。

奈良時代の井戸からは土師器高杯をはじめとして土師器杯・皿、須恵器長頸壺など多くの遺物が出土しました。平安時代末期から中世初期の溝からは小片ながら、白磁がみつかりました。

M区の溝の方向からは、L区とは別の屋敷地が広がっていたと考えられます。



遺跡位置図（カシミール3Dスーパー地形図を用いて作成）  
参考文献：伊藤裕博 2007 『中世伊勢湾岸の湊津と地域構造』 中世史研究論叢 岩田書院



### 井戸（井戸1）

上部は方形、下部が円形の井戸です。埋土から脚部に面取りを施した土師器高杯や、土師器椀・皿、須恵器瓶類が出土しています。特に底近くからは20個以上の土師器甕がみつかりました。これらの出土遺物はいずれも井戸の使用停止後、井戸を埋める過程で放り込んだと考えられます。土器の多くは斎宮や平城京といった都の土器と似ているため、井戸の周辺に身分の高い人物の存在を想定することができます。

白磁の小片が見つかった南北溝（溝1・2）



奈良時代の井戸1  
（土師器高杯出土状況）



古墳時代の竪穴建物（竪穴1）

### 竪穴建物（竪穴1～7）

合計7基のうち、古墳時代前期のものが3基、奈良時代のものが4基みつかりました。古墳時代前期の大型竪穴建物（竪穴1）の溝から台付甕が多数出土しました。

残存状況が良好だった奈良時代の竪穴住居（竪穴6）の東端北半では、カマドがみつかりました。このカマドについては元の形をとどめていませんでしたが、一部はかなり良好に残っており、調理に使用したとみられる土師器甕も同時にみつかりました。

### 掘立柱建物（掘立1～5）

奈良時代のもの（掘立1・2）とそれ以外の時期のもの（掘立3～5）に大別することができます。掘立柱建物の柱穴を埋めた土は多くの場合、あまり遺物を含みませんが、奈良時代の掘立1の柱穴からは多量の土師器高杯・杯・皿などが出土しており、井戸1から出土した土器と同様に、都の土器と類似するものを含んでいます。

奈良時代以外の掘立柱建物の時代については、柱穴の遺物の量が少なく、今後も時期を判断する作業をおこなっています。



竪穴6（奈良時代）のカマド跡

### 南北溝・東西溝（溝1～3）

南北溝（溝1・2）は近接する形で並行しており、溝2を掘った後に短時間で溝1を掘り直したのでしょうか。また、南北溝内とその周辺には多くの小穴があり、これらは溝に関連する柵や橋の一部とも考えられます。溝1から当時高価なものであった白磁の破片が出土しています。溝1～3は時期がほぼ同じであり、延長すると方形になることからL区の区画溝同様、建物や何らかの施設を区画溝するものといえます。

このことから、L区同様に身分の高い人物が住むような屋敷地がM区にも広がっていたことが想定できます。

- 古墳時代
- 奈良時代
- 平安時代

竪穴3

溝1

溝2

掘立4

掘立3

竪穴1

掘立1

竪穴4

竪穴2

竪穴5



M区全体写真